



これは世につたえておきたい
かたっておきたい
わが胸の底から真実のおもい
人生幾山河のめぐりあい
あの日の風やひかり そして空のひとひら
哀歎のかがり火に生きた幾年月の路
「自分史図書館」は その証言館です。



島尾敏雄詩集

思ひ出！
美しいそして人なつこい姿で
訪れてくる思ひ出！
僕は幼い時の写真を見た
妙見山の頂上で
のどかな汽笛を聞き乍ら
田を耕す村人を
いつまでも
見てた時の
純真な姿を思ひつゝ、

(昭和七年四月八日)

思ひ出
島尾 敏雄



○小林勝作品集

私の稀観本ノート その8

椎窓 猛

戦後還暦の夏に

▶戦後60年、還暦の夏を迎える。世情では靖国参拝のことから広島、長崎の原爆被害の件など取りざたされているが、60年の年月はともすれば戦争前後の記憶を風化させている。
▶だが文学作品として描かれた「戦争」は褪せることなく時代を鮮烈によみがえらせる。いや無名の一兵士として戦場を駆けた体験記も、文字に刻まれた冊誌は熱く胸を打ってくる。

▶こうした想いのなかで、私は今いちど、1人の被爆女性を通して、見えない戦争の傷痕を描いた井伏鱒二の「黒い雨」、それに海軍予備学生から第18震洋隊指揮官として奄美加計呂麻島へ、魚雷を抱いての特攻艇出発直前終戦、この体験を基に描かれた島尾敏雄作品「魚雷艇学生」「孤島夢」「出発は遂に訪れず」など今一度再読したいと考える。

▶ここにとりだした詩一篇「思ひ出」は、昭和61年、69歳で急逝された島尾さんの思い出のよすがにと恵贈の「島尾敏雄詩集」のなかから掲出させていただいた。昭和43年の秋、九州大学新聞一松原賞選者の島尾さんから私の小説「ブロンズ芳蔵記」を推挙していただき、この縁で、以後ご厚誼を賜わった。奄美名瀬の図書分館長をお勤めのころ一度お訪ねした。奥さまが港に船出の時刻を訊いてくださって、間に合うまで飲みなさいと島尾さんからすすめられ、ビールをご馳走になったなつかしい思い出がある。あれからもすでに37年余の年月が過ぎたのである。

(自分史図書館館長)

開館 午前9時～午後5時 入館無料
休館 土曜・日曜、祝祭日、年末・年始、その他
休館することがあります。予めご確認下さい。



小林勝の小説「フォード・一九二七年」を読んだのは確か昭和31年のころではなかったか。

洛東江のみなもと、山深い町、ポプラの樹にかこまれ、牛糞のにおいが漂っているような町、町には、東京堂（時計屋）大阪屋（うどん屋）ニュー・イサハヤ（カフェー）自分の出身地を屋号にした家がならぶ町。そこへトルコ人がフォードに乗ってやってきた。そして西洋館をたてる。呉服商でキリスト教の宣教も、朝鮮の子どもとまじって日本人の少年、ぼくのトルコ人への好奇のまなざし。牧歌調に描かれた佳篇は好ましく私にとっては、30歳前後の頃の愛読書のなかの作品集である。齢をかさねること40年余、この作家は1971年（昭和46）の死去。44歳余の一期か。今またとりだして読むのも感慨深い。

朝鮮の山奥の小学校に勤める日本人教師を主人公にした「拉拉屯」など冬枯れ、灌木の山肌を吹きぬける風に波だつすすき、そうした環境におかれた寂寥感などしみじみと肌にしみてくる。



○ゆうすげの花
今木 恭子



○春はブルーレースと
ともに
世良田静江
北原悌二郎



○花子のつづやき
柿添 花子



○竜太日記
小倉 一郎

サブに「充実した人生だったありがとう」とご主人今木敦さんの最期の言葉が添えられている。

今木さんは福岡県庁役人、環境行政のベテランとして知られ、東京事務所長の後、新宮町助役に迎えられたが、1997年、大腸がんのため59歳で死去。入院闘病中の夫妻の生活記録である。

今木さんは演歌が好きで「ゆうすげは淡い黄色よ、夜に咲き朝に散る花……」と森進一風に、看護師さんにわり箸をマイク代りにして歌って聞かされたこともあって、この題が採られたかのようである。

清楚な愛情のこもった追悼記である。

画家として高名の北原悌二郎先生、和泉幼稚園長世良田静江先生共著の園創設45周年記念の出版、温情あふれる愛育、思い出のエッセー集である。

北原画伯の文に「二宮金次郎は今」がある。「兄弟仲よく孝行つくす、骨身惜しまず仕事にはげみ、少しの物も粗末にせず……」。黄昏の野道を帰る小学生を見送りながらの感慨には、昨今の世相と思えばあわせて味わい深いエッセーで共感印象深い。

世良田先生の文では表題にも採られている「春はブルーレースとともに」に感銘。幼時、髄膜炎を起し、半身不随ながら元気で園に通ってくるゆり子ちゃんの健気な姿が描かれている。

命溢れてごくりごくり飲む母乳
コスモスがさらさら女演じ切る
道草の達人でしたタンポポ記
蛍火がピカピカ私の句読点
又秋が一人暮らしをそそのかす
石蹴ってひとつの怒り放たる

花子さんは筑后市水田の生まれ。大川へ嫁ぎ、農家の妻、嫁、母として、人間としてのつづやきが、川柳に昇華して、哀歓あふれる句集として編みだされた。

随筆かごしま社の上蘭登志子さんより、自分史図書館へのご寄贈の一冊である。

著者の小倉一郎氏は鶴丸高校校長など歴任の教育者。

出版に寄せて永田鹿児島大学学長は「少子化のもとで孤独でテレビゲーム相手の無気力な現代の子どもに、竜太を通じて自然のすばらしさと豊かな人間性の尊さを教えてやりたい」と述べられている。夏休み、青少年諸君へ「よく学び、よく遊ぶ」のおすすめ。そして感動、悲しみ、同情、義憤、忍耐や勇気の体験が少年期にはぜひ必要だと語られている。

受贈図書紹介⑧

順次紹介していますが受贈日より多少遅れます。あしからずご了承下さい。

生かされたいのち燃やして……	来須 富子	豊中市	文章教室5～7号……	佐野ツネ子	筑後市
チベット わが回想の10年……	水原 渭江	高槻市	雑草8～10号……	佐野ツネ子	筑後市
幸せに俺たちだっけいきている…	山本 進	狭山市	持っていたんだこんな楽器 口笛…	もくまさあき	東大阪市
姥捨て伝説はなかった……	古田 武彦	向日市	あんま人生泣き笑い……	前中 敬三	大阪市
千虚一実にかかず……	土肥 孝治	大阪市	合氣道に導かれて但求……	庄田 幸生	岸和田市
はめられた真珠湾攻撃……	三好 誠	吹田市	やる気を育てる教育……	井上 秀夫	川崎市
我が戦記ボルネオ回想……	青山 敏男	大阪市	イスタンブールの再会……	大川 欣輝	吹田市
こころ思うままに……	杉浦みな子	生駒市	南中ソーランの真実……	矢野アズ紗	大阪市
宣長残照 山桜の夢……	藤井 滋生	松阪市	敗戦の恐怖……	小野サトエ	宝塚市
母の青春……	小長谷照子	町田市	過ぎさりし日々に……	杉浦みな子	生駒市
雪月花抄……	劉 連花	大阪市	三島事件と類似の三無事件……	宇都宮 忠	四条綴市
愛と哀しみを越えて……	伊藤 孝	廿日市市	信仰に国境無し……	長澤久美子	仁川市